

2018年度も あと僅かとなりました。ここまで 神様のあふれる祝福と恵みにより 導かれながら 愛する子ども達の輝く笑顔の中で 共に心を合わせて 1日1日を歩めましたことに 心より感謝です。皆様の いつも変わらない温かなお心と たくさんのお力添えに、関係者一同、厚く御礼申し上げます。つたない言葉ではありましたが この1年も 園だよりをお読み頂きまして、ありがとうございました。

♪ ちいさいひつじが 家を離れ、ある日 遠くへ遊びに行き、花咲く野原のおもしろさに 帰る道さえ忘れました。けれども やがて夜になると あたりは暗くさびしくなり 家が恋しく、ひつじは今、声も悲しく泣いています。情の深い羊飼いは、この仔ひつじの あとをたずね 遠くの山々、谷底まで、まいごのひつじを 捜しました。とうとうやさしい羊飼いは 迷子のひつじを見つけました。抱かれて帰るこのひつじは喜ばしさに踊りました。

【 幼児さんびかⅠ 42番 (堀内敬三 訳詞・Salvatore Ferretti 作曲) 】より ♪

これは、世界中のキリスト教会や施設で、多くの人々に愛され 歌い継がれてきた「聖書の歌」です。つのぶえ保育園でも 毎年、子ども達が選ぶ讃美歌の中で ベスト5内に 必ずランクインされるほど 人気があります。イエスさまは時として、聖書のみことばや人としての在り方、神様の話をされる際 人々が理解しやすく聞けるように『たとえば…』と、物語やエピソードを用いてやさしく語られます。この“ちいさいひつじ”の讃美歌も、イエスさまが語られた『たとえばなし』をもとにしたものです。「広い広い野原で暮らしていた 100匹の羊たちの中で、1番小さくて いたずらっこなメーコは、どんな時も助けてくれる 強くて心温かな羊飼いのおじさんから とても大切に育てられていました。メーコも 他の羊たちも 優しい羊飼いが 大好きでした。そばにいと いつもホッと安心できました。100匹の羊たちは、どこにいても いつでも おじさんが吹く 角笛 (つのぶえ) の音が聞こえると すぐに集まってきました。おじさんも 必ず羊たちの数を数えて100匹いることを 確認しました。そして、羊たちが守られて1日を無事に過ごせた幸いを喜び、神様へ 感謝のお祈りを ささげました。そんなある日、羊たちは 羊飼いと一緒に高い山の野原まで散歩に出かけました。初めて見る景色に 小さなメーコは心躍らせながら夢中で駆け回りますが、皆から離れた所で勢い余って高い崖の上から 谷底へ真っ逆さまに落ちてしまいます。真白な身体は泥だらけの上、怪我をして立てなくなりました。日が暮れてどんどん暗くなっていく中、メーコは おじさんや羊たちのことを想いながら 泣きました。その頃、羊飼いはメーコがいけないことに気づき、99匹の羊たちのことを神様に祈りその場に残して 急いであちこちを捜しまわり、とうとう 暗い谷で泣きながら震えていたメーコを見つけ出しました。谷底まで降りる間、羊飼いの顔も腕も足も 堅い岩や尖った枝先で傷ついてしまい 血だらけでしたが 羊飼いは、たった1つの小さな命のために自分を顧みることなくすべてを賭けて捜し歩いたのでした。そして 勝手なことをしてしまったメーコを責めることをせず 笑顔で抱きしめ 神様に感謝しました。残された99匹の羊たちも羊飼いに抱っこされて戻ってきた小さな仲間のことを嬉しく迎えました」私自身も通っていた幼稚園の礼拝で園長先生から初めて聞いた聖書のこのお話が とても印象に残り それまでには感じたことの無かった、何とも言えない安心感が 幼い心の中に満たされた感じがして 嬉しかったことを 覚えています。私にとって 神様の愛を知った最初の瞬間だったのかもしれませんが。そして ある時ふと「この まいごのひつじは 自分自身で、捜してくれる羊飼いは イエスさまだ」と 想いを重ねていくようになり、歌う度に この讃美歌は、私の心の支えとして 大好きになりました。神様の愛とはどのようなものなのかを最もわかりやすく表したこのお話は つのぶえの子ども達にも 今 時を超えて 大人気です。メーコの姿を自らに重ね、羊飼いの優しさを通して イエスさまの愛を 確信しつつ その大きな御手に包まれている安らぎを感じながら 毎回 夢中で聞き入っている様子は ほんとうに可愛いらしいです。私達がどこをさまよい歩いていても必ず導き出してくださり、たとえ 99匹を残してでも いなくなった1匹の命を見出すために自分を顧みず捜し続けてくださる愛こそ 人が心から求めている無限の愛なのだと思います。つのぶえで過した日々の中で 子ども達の心には きっとそれぞれに、その愛に委ねて祈る想い、生きる土台がしっかりと培われていると信じています。つのぶえを通して与えられたイエスさまとの出会いが、ひとりひとりの心の強さとなり、これからの 歩みの上に祝福の光として神様が輝かせてくださるよう お祈り致します。感謝とともに (石田 記)

『心に植えつけられた みことばを 素直に受け入れなさい。』

みことばは、あなたがたの たましいを 救うことができます。 (ヤコブの手紙 1:21) 』